

知的書評合戦「ビブリオバトル」開催

6月25日(木)17時45分から図書館読書指導室にて「松山大学ビブリオバトル2015(前期)」(松山大学図書館・松山大学生協 共催)が開催された。

「ビブリオバトル」は前年に引き続き3回目。バトラー(発表者)が読んで面白いと思った本を持ち寄り、一人5分間でその本を紹介し、それぞれの発表の後にその発表に関する質疑応答を3分程度行い、全ての発表が終わった後に「どの本が一番読みたくなったか?」を基準に参加者全員で投票し、「チャンプ本」を決定する。

今回は4名のバトラーが出場し、それぞれが気に入った本を持参し、少し緊張していた学生もいたが、参加者を前に本の紹介を行った。

投票の結果、優勝には「ハッピーバースデー〜命かがやく瞬間〜」(青木和雄著)を紹介した田中玲衣さん(経営学部3年次生)が選ばれチャンプ本に決定し、準優勝には「社会人大学人見知り学部卒業見込」(若林正恭著)を紹介した竹崎由真さん(経営学部3年次生)が選ばれた。2人には賞状と記念品が授与された。

優勝者・準優勝者の図書は、図書館にて発注・受入を行い、館内にて紹介する予定。



優勝した田中玲衣さんによる紹介



バトラー全員による記念撮影

Contents

- 図書館長就任のご挨拶 法学部 教授 妹尾 克敏 P2
- 私が薦めるこの1冊 人文学部 准教授 寺嶋 健史 P3
- 薬学部 教授 牧 純 P4
- 図書館NEWS P5
- C3選書図書紹介 P6
- 図書館からの提案 P7
- 図書館開館日程 P8

図書館長就任のご挨拶

法学部 教授 妹尾 克敏

松山大学図書館へようこそ



本年1月1日付で松山大学図書館長を命ぜられました法学部所属の妹尾克敏（せのおかつとし）と申します。勤続25年を超え、定年退職まで3年余りを残すのみとなりました。法学部開設3年目の平成2年4月1日に法学部講師として赴任した時には、臨時教授会の際の投票によって当時の『図書館運営委員』に選出された経験はありますが、それ以降、本学図書館に積極的に関わる機会は決して多くはありませんでした。それがいざ図書館長を拝命したとたんに、『出張』が少なからず予定されることとなり、それでもなくとも近年、極めて忙しい毎日を送っていたところ、また一段と、それに拍車がかかっている始末です。

ところで、本学図書館の蔵書数はどのくらいかご存知でしょうか。私自身が法学部の開設スタッフの一員として法学部開設3年目に着任し、図書館運営委員になったときにはたしか、66万冊程度であったかと思います。それが、2014年度末時点（2015年3月31日）では、657,400冊の和書、286,300冊の洋書、の合計943,700冊に増加し、加えて、いわゆる電子系ジャーナルとか電子ブック等と呼ばれるものが次第に増加しつつあります。今後は、この電子系「書籍」（と呼ぶべきか否かもよくわかりませんが…）の取り扱いにこそしっかりした対応が求められています。さらには、本学には図書館とは別に「総合研究所」という組織があり、そこにも20万冊程度の蔵書がありますので、合わせると実に114万冊という膨大な蔵書数にのぼります。なお、蛇足ながら、この蔵書数は、おそらく中国四国地区の大学図書館の中ではきわめて豊富で上位に位置づけられるはずですが、これらの蔵書の大半は、もっぱら「専門教育」のための材料でもあるわけですから、経済学をはじめ経営学、英語学、英文学、社会学、法学そして薬学の各分野別に「選書」機能を担って頂いている各学部ないし各分野選出の図書館運営委員のお手を煩わせながら、開架、閉架、資格試験コーナー、あるいは「指定図書」等の書架に配架し、利用者の便宜を図っているはずですが。

しかしながら、これらは、言うならば、本学学生の皆さんの「お勉強」のために配慮されていることであり、いわゆる「本好き」の学生や市民の皆さんの「趣味としてとしての読書」のために利用され活用されているのか否かということになるといささか自信はありません。今や、蔵書検索はOPACというシステムが稼働しており、入館と退館に際してはフラッパーゲートに学生証等の利用者証をタッチすることになっているのはすでによくご存じでしょう。ただ、「趣味としてとしての読書」の欲求を満たすだけの質を伴った蔵書数ないし利用システムになっているか否か、今一度検証してみることが必要でしょう。

すでに、学生の皆さんに対しては、『図書館書評賞』をはじめ、『購入希望図書申込み』制度、『ビブリオバトル』や『ブックハンティング』、あるいは『図書館学生アドバイザースタッフC3』等の一連の企画やイベントを通して、それなりに環境を整えているつもりです。今後はさらに、広い意味での市民の皆さんをも含めた本来の意味での『学びの拠点』として機能するよう、ハード面並びソフト面における充実と改善に関係者の知恵と力を注いでいきたいと考えております。

以上の点について、特に学生の皆さんをはじめ、本学図書館の利用者の皆様にはあらためてこれまで以上のご理解とご協力とを伏してお願い申し上げます。

以上

私が薦めるこの一冊

人文学部 准教授 寺嶋 健史



『「なんで英語やるの?」 の戦後史』

寺沢 拓敬著

研究社 2014年

請求記：375.893||Te

配架場所：図書館閉架

中学校から当然のように学んできた英語。大学生になって、英語を専攻しないにもかかわらず英語の授業が必修でうんざりしている人も多いかもしれない。本書のタイトル「なんで英語やるの?」は、今の大学生諸君のみならず誰もが一度は思ったことがあるのではないか。ところで、中学校で英語が必修科目になったのは意外にも最近で、平成14年から（平成10年告示の学習指導要領で規定）で、まだわずか10年少ししか経っていない。つまりそれ以前は選択科目で、しかも教科名は「外国語科」であり、英語である必要はなく他言語でもよかったのである。高校での必修化はその翌年平成15年からである。

英語はなぜ必修化以前から事実上必修であるかのように扱われてきたのか。なぜ我々日本人は全員英語を学ばなければならなかったのか。この疑問を、単なる個人的主張や見解ではなく、膨大な実証的な文献データに基づいて、教育社会学的観点から分析して解き明かそうとしているのが本書である。

英語教育に対する賛否、存廃論は今に始まったことでなく、英語が日本に入ってきた明治時代以来続いている。「平泉・渡邊論争」はその一例で、実用論（役立つ英語）か教養論か、という激論が交わされた。これは専門的には英語教育目的論の分野になる。戦後新教育制度が始まった当時は、名実ともに英語は選択科目であった。義務教育科目は、社会の要求と生徒の興味に基づいて編成されるべきであり、英語を学ぶことを望まない者もいるため英語は選択科目とすることが、昭和22年の学習指導要領試案で述べられており、当時の社会でもこの「英語＝選択科目」観が根付いていた。地域・個人の必要性に応じて、英語を学べばよかったのである。しかし1950年代になると事

実上の必修化に移行し始める。その初期段階は「全員が一度は学ぶ」という意味での必修化であり、1960年代になると「全員が3年間学ぶ」という意味での必修化（これを本書では「国民教育化」とよんでいる）へと様変わりする。

必修化を促進する要因として、高校入試への英語導入、英語の必要性（社会の要求）の増大、人口動態などを挙げている。例えば人口動態に関しては、第一次ベビーブームが必修化に大きく関わっている。一方、必修化を阻害する要因として、先述の選択科目の理念や農漁村地域の苦境などが挙げられている。例えば、卒業後には大半の生徒が進学せずに家業を継ぎ、英語の必要性が全く無い農漁村地区では、生徒の英語に対する興味関心は皆無であるだけでなく、保護者や地域社会からの協力も得られなかった。そのような地区がいったいどのようにして英語の「国民教育化」へ推移していったのか。各々の詳細については、是非本書を読んで理解を深めてもらいたい。

私は本学で英語教員養成課程に携わっていることもありこの本を選んだ。「なぜ英語を学ぶのか」という疑問に対して生徒が納得する答えを模索するように、教職課程履修者にいつも説いている。もちろんこの問いに対する正解は無く、個人が独自の答えを見出せばいいのである。「国際化」（近年では「グローバル化」）時代だから、という月並みで曖昧な説明に終わるケースが多いが、これでは中身のある答えにはならず説得力に欠ける。

現在小学校での英語必修化が進行中であるが、皆さんは英語必修化全般に関してどのような考えをもっているだろうか。改めてこの問題を考察して、「なんで英語やるの?」に対する自分なりの答えを見つけてみてはどうだろうか。

私が薦めるこの一冊

薬学部 教授 牧 純



『医学の歴史』

小川鼎三著
中央公論新書 1964年
請求記：081||C 2||39
配架場所：図書館4階指定図書、他

『医学の歴史』は、松山大学で文系と理系の学生が同席して受講する牧 純担当の「薬と健康の歴史」の教科書として長年使用してきた。この書籍は全国的にたいへん好評を博してきた名著である。何しろ1964年東京オリンピックの年に初版が出て以来再版を重ねていることから、そのロングランぶりがうかがえる。一部の学生からは表現が古いとの指摘もあったが、すぐに慣れる。

ハンディな新書判であるのもよい。日本・東洋・西洋における医学史の分野が多岐に渡っていてすごぶる情報量が多いが、これを常に携帯することで少しずつでも読み進められる。

現在では「薬と健康の歴史」の講義で『医学の歴史』を参考書に指定しているが、この書物は是非とも学生諸君に薦めたい1冊である。もちろん学生でなくても、ずっしりとした読後感の余韻がなかなかさめないオリジナリティの高い本である。

『医学の歴史』は、ふだん我々が全く気付かない根本的な理解へと導いてくれる。ともすれば陥りがちな医学・医療の歴史に関する数々の誤解とステレオタイプの見方を是正し、また認識不足の点を補ってくれる。例をあげると次の通りである。

まず、医学の医の字であるが、この旧字体の上の部分手術道具すなわち外科系で、下の部分が酒を意味する酉すなわち内科系であるという。この旧字体のそれ以前の字体では下半分が巫であったという。その昔、巫女が呪術による“医療”を司っていた表れらしい。

日本に最初に入ってきた西洋医学はオランダ医学と思い込むケースも多いが、戦国時代末期にスペイン・ポルトガルから伝来したアルメイダ医学（南蛮医学ともいう、“南蛮～”とかいう料理や菓子の名前は実はこの時代にさかのぼる）が最初である。この時期、大分県に日本で最初の西洋式病

院が建てられた。ちなみに、小川先生は大分県出身の方である（実は私も同県出身）。

明治になってから海軍はイギリス式を、陸軍はドイツ式を導入した史実はある程度日本史を学んでいるとわかるが、では医学は？ イギリス医学でなくてドイツ医学を導入したのはなぜか。この辺りの事情が明瞭に理解される。誰しも読後感の余韻の感じられるところである。

また、次のような“軌道修正”もしてくれる。堅苦しい歴史書と異なり、確かに「歴史小説」は楽しく読める。しかし、必ずしも史実に基づいていない。このことを『医学の歴史』は教えてくれる。自分の罪深き行いを悔いて自身の遺体を解剖研究に供してもらいたいと言い遺した女性の解剖が日本における人体解剖の最初の例であるとの某歴史小説における設定は、読み物としてはたいへん興味深く受け容れやすい（ふと思うに、当時一般の人々が解剖の価値と重要性をそこまで認識していたであろうか？）。しかし『医学の歴史』によると人体解剖の最初の例は刑死者であった。特志解剖は明治時代になってからという。

『医学の歴史』には、著者のご専門であられる解剖学の日本・東洋・西洋における歴史が詳述されている一方で、薬学に関する記述は比較的少ない。医薬分業の始まりのことも触れられていない。薬剤師先進国イギリス・フランスの現況、温泉医療なども私なりにしたため最近遅ればせながら、拙著『国際医薬史入門』（青山社、2015年）を出版した。『医学の歴史』に記載された上述の諸例はもちろんのこと、その他の内容も大いに引用させて頂いた。しかし、私の拙い表現力では原典の格調高さと重厚さは、読者に伝わってゆかないのではないだろうか。『医学の歴史』を是非とも読んで頂きたいと思うゆえんである。

図書館NEWS

オープンキャンパス開催

今年もオープンキャンパスが開催され、8月1日、8月2日の2日間たくさんの高校生やご父母の方々に松山大学図書館を見学していただきました。今年は、図書館アドバイザースタッフのC3の皆さんが、例年以上に高校生に親しみやすいように主体的に運営してくださいました。

オープンキャンパス当日の様子



書評の書き方教室開催

今年度も経営学部教授 藤田聡司先生による書評の書き方教室を開催しました。「書評」とはそもそも何か。書き方はどうするのか。といった基本的なことから具体的な事例まで2回に渡り教えていただきました。毎年募集を行う「松山大学書評賞」に受講者から入賞者が出てほしいものです。



開催概要

第1回 5月21日(木)

テーマ：「書評の定義 一読書感想文、ブックレポートとの違い」

第2回 5月28日(木)

テーマ：「書評の事例から学ぶ書評の書き方」

C3選書図書コーナーの本が新しくなりました

9月に本館1階のC3選書図書コーナーの本の入替えをしました。こちらの本は、学生であるボランティアスタッフC3のメンバーが選んだ本ということもあって、若い世代の方に興味をもってもらいやすい本がそろっています。ぜひ一度手に取ってみてください。

番号	書名	請求記号
1	量子コンピューターが本当にすごい: Google, NASAで実用が始まった「夢の計算機」(PHP新書:987)	007.1 Ta
2	中国グローバル化の深層:「未完の大国」が世界を変える(朝日選書:934)	319.22 Sh
3	なぜ日本人は、こんなに働いているのか? お金持ちにならないのか?: 21世紀のつながり資本論	337.1 Wa
4	航空自衛隊F-15J/DJ全機写真集: JASDF PERFECT PHOTO BOOK	538.7 Ko
5	カクテル事典(贅沢時間)	596.7 Th
6	リバーズ	913.6 Mi
7	アルジャーノンに花束を 新版(ハヤカワ文庫 ハヤカワ文庫NV:NV1333)	Lib 2015 あ
8	愛を積みむと(小学館文庫:[と8-2])	Lib 2015 あ
9	アンフェアな月(河出文庫 刑事雪平夏見)	Lib 2015 あ
10	5日間の休みで行けちゃう! 美しい街・絶景の街への旅: 初心者でも大丈夫! 手頃な値段で絵本のような別世界へ	Lib 2015 い
11	一路 上(中公文庫:[あ-59-4], [あ-59-5])	Lib 2015 い
12	一路 下(中公文庫:[あ-59-4], [あ-59-5])	Lib 2015 い
13	イノセント・ギリラの祝祭 上(宝島社文庫:[Cか-1-7, 8], [このミス大賞])	Lib 2015 い
14	イノセント・ギリラの祝祭 下(宝島社文庫:[Cか-1-7, 8], [このミス大賞])	Lib 2015 い
15	うれしい悲鳴をあげてくれ(ちくま文庫:[い-80-1])	Lib 2015 う
16	ヴァリス 新訳版(ハヤカワ文庫:7368, ハヤカワ文庫SF:SF1959)	Lib 2015 う
17	宇宙の眼(ハヤカワ文庫:7421, ハヤカワ文庫SF:SF1975)	Lib 2015 う
18	ヴォイド・シェイバ(中公文庫:[も-25-9])	Lib 2015 う
19	女ふたり台湾、行って来た。(地球の歩き方コミックエッセイ)	Lib 2015 お
20	終物語 続(講談社Box:[二A-32], [二A-33], [二A-34], [二A-35])	Lib 2015 お
21	カーが食べにくくなった: インドカレー、タイカレー、韓国カレー、おうちカレーの4タイプにサラダ、漬物、カレー飯の絶品がすべて入る	Lib 2015 か
22	空の境界 上(講談社文庫:[な-71-1], [な-71-2], [な-71-3])	Lib 2015 か
23	空の境界 中(講談社文庫:[な-71-1], [な-71-2], [な-71-3])	Lib 2015 か
24	空の境界 下(講談社文庫:[な-71-1], [な-71-2], [な-71-3])	Lib 2015 か
25	禁断の魔術(文春文庫:[ひ-13-12])	Lib 2015 き
26	桐島教授の研究報告書: テロメアと吸血鬼の謎(中公文庫:[き-40-3])	Lib 2015 き
27	衆島 上(角川文庫:19061-19062, [う1-85-86])	Lib 2015 き
28	衆島 下(角川文庫:19061-19062, [う1-85-86])	Lib 2015 き
29	クローディアの告白 上(ダニエル・キイス文庫:9,10)	Lib 2015 く
30	クローディアの告白 下(ダニエル・キイス文庫:9,10)	Lib 2015 く
31	クレイドル・ザ・スカイ(中公文庫:[も-25-7])	Lib 2015 く
32	限界集落株式会社(小学館文庫:[く6-6])	Lib 2015 け
33	殺してもいい命(河出文庫 刑事雪平夏見)	Lib 2015 け
34	愛娘にさよならを(河出文庫 刑事雪平夏見)	Lib 2015 け
35	ゴッドファーザー 上(ハヤカワ文庫:N1099-NV1100)	Lib 2015 こ
36	ゴッドファーザー 下(ハヤカワ文庫:N1099-NV1100)	Lib 2015 こ
37	五番目のサリー 下(ダニエル・キイス文庫:2, 3)	Lib 2015 こ
38	五番目のサリー 上(ダニエル・キイス文庫:2, 3)	Lib 2015 こ
39	古書店主(ハヤカワ文庫 ハヤカワ文庫NV:NV1296)	Lib 2015 こ
40	また会えたなら、あなたの淹れた珈琲を(宝島社文庫:[Cお-2-1], 珈琲店タレーランの事件簿:1)	Lib 2015 こ
41	彼女はカフェオレの夢を見る(宝島社文庫:[Cお-2-2], 珈琲店タレーランの事件簿:2)	Lib 2015 こ
42	心を乱すブレンドは(宝島社文庫:[Cお-2-3], 珈琲店タレーランの事件簿:3)	Lib 2015 こ
43	ブレイクは五種類のフレーバーで(宝島社文庫:[Cお-2-4], 珈琲店タレーランの事件簿:4)	Lib 2015 こ
44	心の鏡(ダニエル・キイス文庫:8)	Lib 2015 こ
45	高慢と偏見: 新装版(河出文庫)	Lib 2015 こ
46	殺人鬼 覚醒篇(角川文庫:16967, 17261)	Lib 2015 さ

番号	書名	請求記号
47	殺人鬼 逆襲篇(角川文庫:16967, 17261)	Lib 2015 さ
48	重力ピエロ(新潮文庫:7974, い-69-3)	Lib 2015 し
49	少女は卒業しない(集英社文庫:[あ69-3])	Lib 2015 し
50	菓子さんの本棚: ピブリア古書堂セレクトブック(角川文庫:17975)	Lib 2015 し
51	パンと就活(PHP文芸文庫:[あ3-4], 書店ガール:4)	Lib 2015 し
52	J2熱狂読本: 2015年の全22チームを徹底取材! どこよりも熱くJ2を語る!	Lib 2015 し
53	資産はこの「黄金株」で殖やさない!	Lib 2015 し
54	ストレイヤーズ・クロニクル ACT-1(集英社文庫:[ほ17-5], [ほ17-6], [ほ17-7])	Lib 2015 す
55	ストレイヤーズ・クロニクル ACT-2(集英社文庫:[ほ17-5], [ほ17-6], [ほ17-7])	Lib 2015 す
56	ストロベリーナイト(光文社文庫:[ほ4-1])	Lib 2015 す
57	推理小説(河出文庫)	Lib 2015 す
58	スカイ・クロラ(中公文庫:[も-25-1])	Lib 2015 す
59	スカイ・イクリプス(中公文庫:[も-25-8])	Lib 2015 す
60	スカル・ブレイカ(中公文庫:[も-25-11])	Lib 2015 す
61	ゼロの迎撃(宝島社文庫:[Cあ-13-2])	Lib 2015 せ
62	世界最強の商人(角川文庫:18851)	Lib 2015 せ
63	聖なる侵入 新訳版(ハヤカワ文庫:7479, ハヤカワ文庫SF:SF1988)	Lib 2015 せ
64	高い城の男 24刷(ハヤカワ文庫:SF568)	Lib 2015 た
65	ダウン・ツ・ヘヴン(中公文庫:[も-25-3])	Lib 2015 た
66	ちょっとネコぼけ	Lib 2015 ち
67	チーム・バチスタの栄光 上(宝島社文庫:[Cか-1-1], [Cか-1-2])	Lib 2015 ち
68	チーム・バチスタの栄光 下(宝島社文庫:[Cか-1-1], [Cか-1-2])	Lib 2015 ち
69	天空の蜂(講談社文庫:[ひ-17-19])	Lib 2015 て
70	デッド・オア・アライヴ(講談社文庫:[は-8-5])	Lib 2015 て
71	トマト・ゲーム(ハヤカワ文庫 ハヤカワ文庫JA:JA1197)	Lib 2015 と
72	トータル・リコール(ハヤカワ文庫:SF1863, ティック短篇傑作選)	Lib 2015 と
73	謎好き乙女と奪われた青春(新潮文庫:10184, せ-17-1)	Lib 2015 な
74	ナイチンゲールの沈黙 上(宝島社文庫:[Cか-1-3], [Cか-1-4])	Lib 2015 な
75	ナイチンゲールの沈黙 下(宝島社文庫:[Cか-1-3], [Cか-1-4])	Lib 2015 な
76	ナ・バ・デア(中公文庫:[も-25-2])	Lib 2015 な
77	ニャンモナイト: 猫はモフモフ丸くなる	Lib 2015 に
78	日本国憲法: 超訳(新潮新書:613)	Lib 2015 に
79	猫島: 14人の住民と200匹の猫の島・愛媛・青島	Lib 2015 ね
80	ハリルホジッチ思考: 成功をもたらす指揮官の流儀	Lib 2015 は
81	ふむふむ: おしえて、お仕事!(新潮文庫:10237, み-34-13)	Lib 2015 ふ
82	ふむとろこねこ	Lib 2015 ふ
83	フラッター・リンツ・ライフ(中公文庫:[も-25-5])	Lib 2015 ふ
84	ブラッド・スクーバ(中公文庫:[も-25-10])	Lib 2015 ふ
85	ぼくのミステリーな日常(創元推理文庫:[Mわ11])	Lib 2015 ほ
86	亡国のイージス 上(講談社文庫:[ふ-59-2], [ふ-59-3])	Lib 2015 ほ
87	亡国のイージス 下(講談社文庫:[ふ-59-2], [ふ-59-3])	Lib 2015 ほ
88	街角の書店: 18の奇妙な物語(創元推理文庫:[Fん8-2])	Lib 2015 ま
89	ユーピック(ハヤカワ文庫:SF314)	Lib 2015 ゆ
90	四畳半神話大系(角川文庫:15069)	Lib 2015 よ
91	夜の国のクーバー (創元推理文庫:[MLわ4-2])	Lib 2015 よ

図書館からの提案

■もっていこう基本ルール

松山大学図書館は学生の皆さんの他に、教職員や松山市民など一般の方々も利用されています。静かに利用するのはもちろん、下記に示したのはほんの一部ですが、基本的なルールとマナーを守って全ての人が気持ちよく利用できるようにしていきましょう。

●「入館・退館はゆっくりと」

入館の際に通るフラッパーゲートは学生証（ライブラリーカード）をかざして1人ずつ通るようにできています。退館に関してもあわてず急がず一人ずつお願いします。

学生証は常に携帯するようにしてください。



●「図書の返却は、期限内に必ずカウンターへ」

図書館の資料は様々な人たちが利用する共有財産です。借りた場合は必ず返却期限内に入口のサービスカウンターに返却してください。館内の返却台や書棚に戻したのでは返却されたとみなしますので注意してください。尚、休館日に限っては図書返却ポストもご利用ください。

本のまた貸しはしないでください。



●「飲食や喫煙は所定の場所で」

館内での飲食により資料の汚損や害虫の発生などのリスクが考えられます。飲食は図書館入口横の談話室などをお願いします。また、図書館は特に燃えやすい環境にあり、館内での喫煙は最悪の場合は火事になることも考えられますので絶対にやめてください。

平成27年度愛媛地区大学図書館協議会総会開催

2015年8月3日（月）、本学にて県内の大学図書館関係者が参加して開催され、報告事項及び協議事項について会議が行われました。会議終了後、カルフルでささやかながら懇親会がおこなわれ、和やかな雰囲気の中、それぞれの図書館の現状やこれからの関しての情報交換をしました。

図書館 開館日程

本館・薬学部分室

本館・薬学部分室

本館

薬学部分室

2015年 11月			2015年 12月			2016年 1月			2016年 1月		
1(日)	休館		1(火)			1(金)			1(金)		
2(月)	9:00~22:00		2(水)			2(土)			2(土)		
3(火)	休館	文化の日	3(木)	9:00~22:00		3(日)	休館		3(日)	休館	
4(水)			4(金)			4(月)			4(月)		
5(木)	9:00~22:00		5(土)			5(火)			5(火)		
6(金)			6(日)	休館		6(水)			6(水)		
7(土)			7(月)			7(木)	9:00~22:00		7(木)	9:00~22:00	
8(日)	休館		8(火)			8(金)			8(金)		
9(月)			9(水)	9:00~22:00		9(土)			9(土)		
10(火)			10(木)			10(日)	休館		10(日)	休館	
11(水)	9:00~22:00		11(金)			11(月)	休館	成人の日	11(月)	休館	成人の日
12(木)			12(土)			12(火)			12(火)		
13(金)			13(日)	休館		13(水)	9:00~22:00		13(水)	9:00~22:00	
14(土)		推薦入学試験	14(月)			14(木)			14(木)		
15(日)	休館	推薦入学試験	15(火)			15(金)	9:00~17:00	センター試験準備のため休講	15(金)	9:00~17:00	センター試験準備のため休講
16(月)			16(水)	9:00~22:00		16(土)	臨時休館	センター試験	16(土)	臨時休館	センター試験
17(火)	9:00~22:00		17(木)			17(日)	休館	センター試験	17(日)	休館	センター試験
18(水)			18(金)			18(月)			18(月)		
19(木)			19(土)			19(火)			19(火)		
20(金)	臨時休館	体育の日の休日振替	20(日)	休館		20(水)	9:00~22:00		20(水)	9:00~22:00	
21(土)	休館	熟田津祭	21(月)	9:00~22:00		21(木)			21(木)		
22(日)	休館	熟田津祭	22(火)			22(金)			22(金)		
23(月)	休館	勤労感謝の日	23(水)	休館	天皇誕生日	23(土)			23(土)		
24(火)			24(木)	9:00~22:00		24(日)	9:00~22:00	臨時開館	24(日)	9:00~22:00	臨時開館
25(水)			25(金)	臨時休館	館内整理	25(月)		I 期入試	25(月)	※臨時休館	I 期入試
26(木)	9:00~22:00		26(土)			26(火)			26(火)		
27(金)			27(日)			27(水)	9:00~22:00		27(水)		
28(土)			28(月)			28(木)			28(木)	9:00~22:00	
29(日)	休館		29(火)	休館		29(金)			29(金)		
30(月)	9:00~22:00		30(水)			30(土)			30(土)		
			31(木)			31(日)	9:00~22:00	臨時開館	31(日)	9:00~22:00	臨時開館

松山大学図書館報 No.56 2015年10月1日発行

編集・発行 松山大学図書館

〒790-8578 松山市文京町4番地2 TEL (089) 925-7111 (代)

ホームページアドレス <http://www.matsuyama-u.ac.jp/>

E-mail: mu-libs@matsuyama-u.jp